

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

附属学校における一貫性のある教育と大学との連携による「まっなみ学習支援室」を中核に据えた児童に対する適切な支援方法の開発研究

2. 問題意識・提案背景

幼稚園から発達障害の可能性のある子どもが入園しており、附属学校における連絡入学制度により小学校、中学校へと進む子どもが少なくない。そこで、幼稚園段階からの早期支援と附属小学校を中核に据えた学校園間の教育の連携が大きな課題となってきた。そこで、附属学校における学習支援室を中核に据えた学習面及び生活面での支援方法を開発するための研究を進めていくことが必要と考えた。

3. 指定校について

（小学校の場合）

指定校名：山形大学附属小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	99	3	98	3	95	4	100	4	95	4	125	4
特別支援学級												
通級による指導の対象者数									1		1	
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	施設管理職員	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	24	1	2	1	5	3	1	1	40		

4. 指定校における取組概要

① 目的・目標

「まっなみ学習支援室」を中核として、学習面や生活面で困り感を示す児童の学校生活への不適応を防ぐため、授業改善と個別指導の組み合わせ等により適切な支援方法を開発することを本研究の目的とする。

本研究を通じて、研修の充実（教員の受講率100%）、保護者の理解促進（研修会参加者500名以上、）及び専門家養成の推進（講師、助言者等10名以上）を到達すべき目標とする。

② 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含むすべての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善

- ・ユニバーサルデザインに基づく授業や ICT の活用による情報提示を積極的に行う授業などを実施し、大学教員を交えた授業研究会により指導方法の改善に取り組む。その成果は、公開研究会等の機会を通じて、県内外の学校へ情報発信する。

- ③ 放課後補充指導等の学習面での配慮や視覚的・聴覚的な刺激の軽減等の行動面での配慮による指導方法の工夫
 - ・大学教員のスーパーバイザーによるアセスメントと指導計画に基づき、支援員による個別指導を実施し、学習面での支援を充実させる。
- ④ 適切な実態把握等による早期支援の実施
 - ・支援ファイルの作成と附属学校園，附属中学校間の連絡・共有により，学校園での生活全般について早期からの一貫した支援を実施する。

5. 主な成果

- ・7月29日（火）に実施した附属学校合同研修会（1日研修）には，附属学校園（幼・小・中・特支）から78名の教職員が参加し出張者を除いた受講率は100%であった。内容は，次の通りである。
講演と演習「附属学校園の幼児児童生徒理解と対応」「担任力で育む」
講師 広島大学大学院 教授 栗原慎二 氏
- ・保護者に対する研修会は，6月6日（金）の教育課程説明会の終了後に行い「特別でない特別支援教育」というテーマで説明し，特別支援学級のない附属小学校においても特別支援教育が必要なことを伝え保護者の意識の変容を図った。
- ・附属小学校職員を中心に，県や市教委主催の特別支援教育研修会などに参加して，特別支援教育に対する専門性を高めることができた。
- ・支援員の配置により一人ひとりへの関わりが増えた効果として，次のような改善が見られた。
 <不登校傾向児童数>
 25年度 1名（別室登校） 26年度 0名
 <欠席児童数>
 25年度 592人 26年度 581名（10月末現在）
 ※ 特に3年生では，68名も減少した。
 ※ 5日以上欠席者数も25年度11人に対し26年度4人（10月末現在）と大きく減少している。
- ・低学年（1年～3年）を中心に支援員を配置したことにより，常にTTの学習が可能になり，校舎改修工事中の騒音の中においても，児童は，教室からの飛び出しなどなく，落ち着いて学習に取り組むことができるようになった。
- ・発達障害の可能性のある児童を含めた特別支援の必要な児童を改めて洗い出し，個に応じて支援計画や指導計画の作成を進めることができた。
 ＊本校の傾向として，自閉スペクトラム症傾向児童の割合が大きい。
- ・大学との連携により四附属の関わりが深くなり，附属学校園の幼児児童生徒への的確な指導援助につながっている。

6. 今後の課題と対応

- ・耐震化校舎改修工事のため公開研究会を見送り、附属小学校の研究にユニバーサルデザイン授業の要素を取り入れた授業の公開ができなかったので、27年度に公開するとともに、更なる授業改善に取り組む。
- ・個々への対応を強化するため、より多くの個別支援計画及び指導計画を作成し、対応するようにする。
- ・特別支援関係職員（特別支援教育コーディネーター・発達障害支援コーディネーター・スクールカウンセラー・支援員等）の関わりを整理するとともに、勤務日数・勤務時間などの変更も検討し、さらに有効に活用できるよう改善する。
- ・対象児童の実態把握，保護者との困り感の共有，専門家との連携，指導体制の工夫，児童理解に基づいた学級経営，以上の5点を常に意識しながら，組織的対応ができるようにしていくことである。

7. 問い合わせ先

組織名：山形大学

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| (1) 担当部署 | 小白川キャンパス事務部附属学校事務室 |
| (2) 所在地 | 山形県山形市松波二丁目7-2 |
| (3) 電話番号 | 023-641-4443 |
| (4) FAX 番号 | 023-641-8594 |
| (5) メールアドレス | somhosafu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp |